

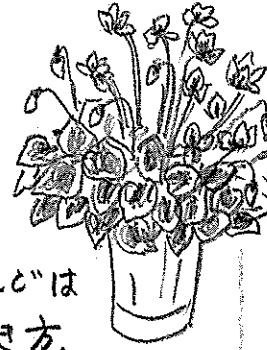
読書ノート

・二列目の人生・隠れた異才たち
池内紀著・晶文社
いい本だった。登場する16人のほとんどは知らない人だ。一番を選ばない生き方、名声や世評を求めず自分の道を生きた異才の人たち。名声より大切なものは? 今もこういふ人かいふるのだろうか。画家 篠牛人(タカヒコ・ギュウジン)の絵はモノクロ写真で見てもドキッとする。現物を見たい!こんな人たちがいてくれたという、その存在が有難い。本を読むことで著者の視点や感性を感じとり、大切なことは何かということを教わっていろのだ"と思った。

・宮本常一と写真 石川直樹ほかコロナプラス
民族学者宮本は、日本中くまなく歩いて文章を書き、10万枚以上の写真を撮った。日本人の日常とその姿の記録。私の幼い頃の姿もある。あれから60年、風景が消え、人が消えくらしもすっかり変わった。さりとて、あの日に続く道かなり。日本という土地に暮らす私たちは、どうへ行こうとしているのか。

・貧農暮らし 森まゆみ著 集英社文庫
森田昌美イラスト

「ヒンラク」、貧でも楽しい生活ができますのは、おいで友だちと町のおかけとありのままの暮らしを見せてくれる、女子ひとつで子の子を育て、仕事に打ち込んだ。飾らない人柄が読者も元気にしてくれた。ひとりで子育て、仕事にかかるはうる友人たちは、読ませてあけたり。私も友だちやご近所の一員であることをいたいたい。



革園 黒のまきちゃんから
私はどちらかでアモリ

新種のシクラメンみたいですね。

里いもと鶏肉の炊いたん(4人分)

里いも 400g - 洗ひ皮か薄切りからむく、乾いた
・ほきんで汚れをとる。

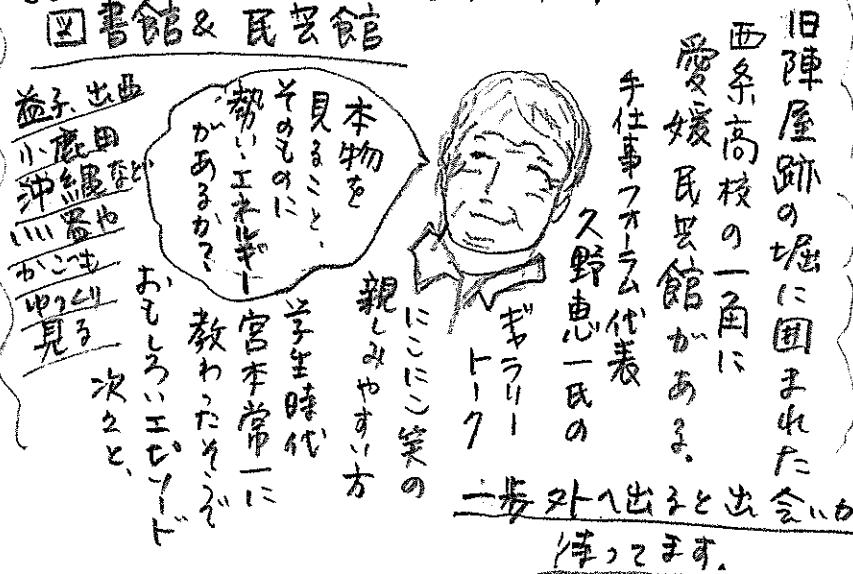
鶏手羽中8本 - 骨と骨の間に切り込みを入れる。

煮汁 $\left\{ \begin{array}{l} \text{だし} 2\frac{1}{2} \text{C} \sim 3 \text{C} \\ \text{さとう 大さじ} 3 \\ \text{しうり} \end{array} \right. \begin{array}{l} \text{注ぎ} \\ \text{立て} \\ \text{アクを取り落す} \end{array}$
みりん 大さじ2 \cdot さとう、みりんを加え5、6分煮て
しうりを加え、煮汁が半量になるとまで煮る。



次はさよちゃんの車で
ここいいとおりのまち 西条市へ

図書館&民芸食館



けやき通信 2014.12月 No. 258

一錦織 佳代子一

10月号に
My House Meets Art
やかやのアート

